

富山 NEWS WEB

アルミ合金で水素エネルギー実験

12月10日 19時41分



環境に優しいとされる水素エネルギーをさまざまな材料から安定的に生み出す技術を確認しようと高岡市のベンチャーが10日から実証実験を始めました。

水素エネルギーを使った循環型社会の実現に向けて弾みが付くことが期待されています。

実証実験を始めたのは高岡市に本社を置くベンチャー企業、「アルハイテック」です。

この会社ではアルミニウムから水素エネルギーを発生させる装置を開発していますが、10日は実験に使われる新たな装置を公開しました新たな装置は幅と高さが約3メートル、奥行きが約5メートルあります。

材料には自動車工場の製造過程で多く出るアルミ合金の削りかすを使っています。

この削りかすにはアルミ以外の金属も含まれているのが特徴です。

この会社ではアルミから水素エネルギーをつくる技術はすでに確立していますが、今回の実験ではアルミを含んださまざまな材料から水素を安定的に生み出す技術の確立を目指していて、将来的には世界で初めてとなる廃棄物を使った水素発生装置を実用化したいとしています。

さらに10日は水素エネルギーの幅広い活用方法を知ってもらおうと電気を起こしてクリスマスツリーの飾りを点灯させたり、火をおこしたりする実験も披露されました。

この会社によりますと実証実験が成功すれば、被災地に装置を送って災害対策に役立てられるほか、石油に代わる次世代のエネルギーとして活用できるようになるということです。

ベンチャー企業のアルハイテックの水木伸明社長は「アルミ水素は安価に製造できるほか、二酸化炭素を排出しないクリーンなエネルギーとして幅広く利用してもらえると確信している」と話しています。